

スマホ利用について

成羽中学校 3年 石原 亜由巳  
3年 小池 陽菜  
成羽中学校生徒会では、平成26年度から「9時だよ！ 全員終了！」のスローガンのもと、午後9時になったら全員スマホやゲームをやめようと呼びかけ、生徒自身でスマホの利用について考える取り組みを行っています。

生徒会が定期的にアンケート調査を行い、その結果を全校集会で報告しています。また、小学校へ出向き、スマホの正しい利用方法や中学校の取り組みを紹介する出前講座、OKAYAMAスマホサミットへの参加、生徒会が作成した保護者向けリーフレットの配布等の啓発運動を行っています。

「9時だよ！ 全員終了！」を守れている生徒の割合は増えてきていますが、その一方で「スマホの利用時間が長い」と答える生徒もいるため、その対策について生徒会で話し合っています。  
高梁市では、ネット依存やネットトラブルについて、どのような対策をしているかをお聞かせください。

【答弁】 平田教育長

調査では、市内の中学生のスマホ所有率は約44%。スマホは便利な機器ですが、使い方を誤るとネット依存やトラブルが多く発生するなど、社会問題となっています。

市の対策としては、小学校の高学年を中心に情報モラルの学習、中学校ではネット依存やトラブルについての学習、専門家を呼んで保護者と一緒に講演を聞いて学習をするなどの取り組みを行っています。特に中学校では、昨年度より「高梁スマホサミット」を開催して、中学生のスマホの適切な利用について、それぞれの学校の生徒会の取り組みを発表していただき、情報交換をして広めています。

市民を対象とした取り組みでは乳幼児健診の時に保護者への啓発やチラシの配布、ネットトラブルが起きた時の相談窓口を市役所に設置し、ネットトラブル防止のリーフレットによる啓発もしています。  
今後こうした取り組みを充実させ、明るく社会の実現に市民と協力して取り組んでいき、その輪を広げていきたいと思っています。

安全な通学・通勤路確保

備中中学校 3年 井上 葵  
3年 川原 菜奈未  
備中中学校は、来年度から成羽中学校に統合され、スクールバスで通うようになります。

私たちの通学や家族の通勤にとって、バスや自家用車が重要な交通手段になりますが、私たちの主要道路である県道33号線は、道幅が狭くて危険箇所が多く、市街地のように整備がされていません。バス停も道路脇に看板があるだけの場所もあり、重大な事故が起こる可能性が高いと思われま

す。普段の生活や自然災害など、緊急時にも安心して交通機関が利用できるように、センターラインのある広い道路や歩道、安全なバス停のある道路整備をしていただけないでしょうか。

高梁市街地と備中地区各地を結ぶ、安心・安全な道路が整備されれば、備中地区の農業・観光資源にも多くの方が注目し、過疎地の活性化にもつながると思います。  
この件について、回答をお願いします。

【答弁】 近藤市長

県道33号線(新見・川上線)については、高梁市内の全長が約19km、2車線になっていない(道路幅の狭い)区間が約4.6km残っています。また、大雨が降った時には通行止めになる区間もあります。

安心して利用できる、そして、通行止めにならない安全な道路を作りたいというの、市民の皆さんの願いであり、市として、岡山県への緊急的な要望としてお願いをし、この県道改良を早急に進めていきたいと思っています。

現在、整備に向けた調査も始まっています。もちろん、用地のこともありますが、地域の方にご理解をいただかないといけない部分もありますが、1日でも早く、安全で広い道路になるように、市としてもできる限りの応援を県と一緒にやっていきたいと思っています。

備中中学校の皆さんには、来年からスクールバスで通っていただくこととなります。生徒の皆さんの安全を確保するという点からも、県道33号線の改良は私たちの使命だと思っています。

高梁市のバスの運営について

川上中学校 2年 樋口 瑛葉  
2年 川上 真之輔  
毎朝バスを利用して高校へ通っている高校生から、金額が高すぎるという声を聞きました。

高校生が使用するバスの定期代を調べてみると、一年間で約30万、三年間通うと約90万円になり、高梁市内の高校に通う場合でも、高校の寮に入る人もいます。また、井原方面に行くバスや高梁市内を回るバスの本数が少なく、不便だという声も聞きました。

そこで、欧米で行われているような、タクシーのように自分が好きな時に好きな所へ行くために、お互いが都合が合う人が乗り合うようなサービスを提供する企業を高梁市でも営業を開始するように働きかけるのも一案だと考えます。  
多くの人が簡単に行きたい場所に移動でき、交流する場が増えると高梁市の活性化にも繋がると思っています。将来、高梁市として、バスの運営をどのように考えられているかをお聞かせください。

【答弁】 近藤市長

公共交通の問題は高梁市だけではなく、全国どこでも抱えている問題で、どの自治体も具体策がなく、解決が難しい問題となっています。

先ほど市内の公共交通は、定期路線バスや生活福祉バスなど、年間2億6千万円の運行経費が必要で、利用促進として、定期券の購入費助成などの制度の説明をしました。  
現在、公共交通に関する計画を作っており、この中で継続して、市民の皆さんの生活を支えていくための公共交通機関の在り方を作っていくと考えています。

公共交通の問題解決には地域の皆さんの理解が必要です。ぜひ、これから皆さんが率先して、公共交通機関は、これからは残していく大事なものと認識を持っていただき、また、その利用の意義を理解していただき、公共交通機関を利用してもらうことが大切なことだと思っています。  
いずれにしても、市全体の公共交通をどうするか結論を出していかなければならないと思っています。



川原 菜奈未 議員  
(備中中学校)



井上 葵 議員  
(備中中学校)



小池 陽菜 議員  
(成羽中学校)



石原 亜由巳 議員  
(成羽中学校)



川上 真之輔 議員  
(川上中学校)



樋口 瑛葉 議員  
(川上中学校)